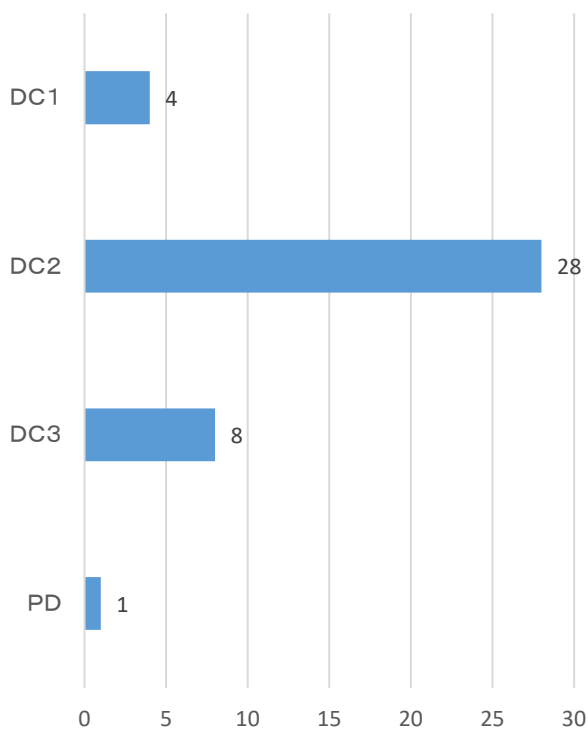


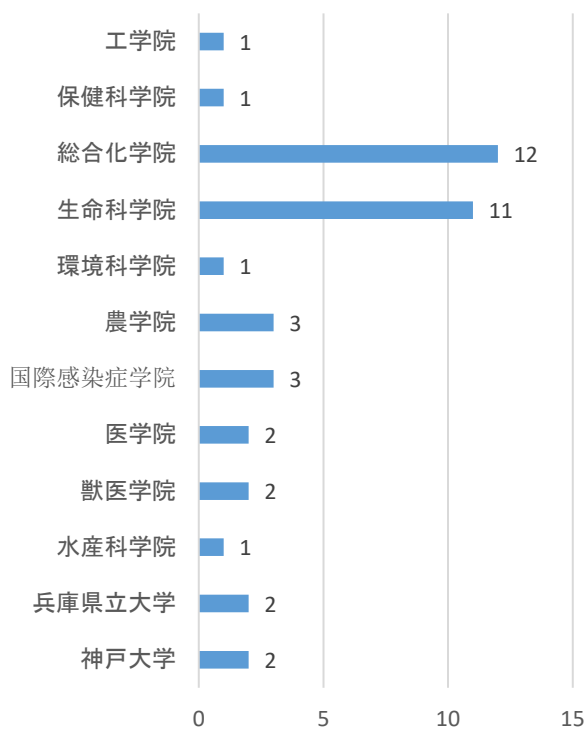
第61回 (R8第1回) 赤い糸会 アンケート

[1] 回答者：博士人材39名 (※うち33名分掲載)
企業18名 (参加者：博士人材41名・企業13社)

博士人材学年

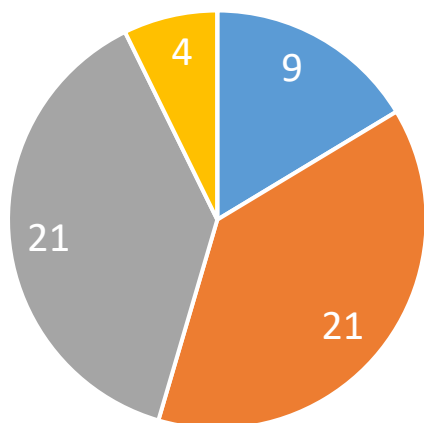


博士人材所属



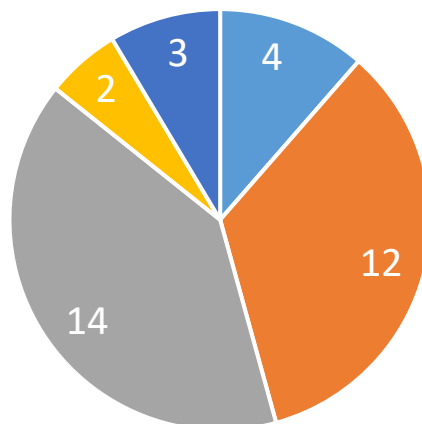
[2] 博士人材ポスター発表(複数回答可)

アピールできた点(博士人材)



- 1.プレゼン技法
- 2.専門性
- 3.人物・個性・特徴
- 4.ポスターのデザイン・レイアウト
- 5.全くできなかった

注目する点(企業)

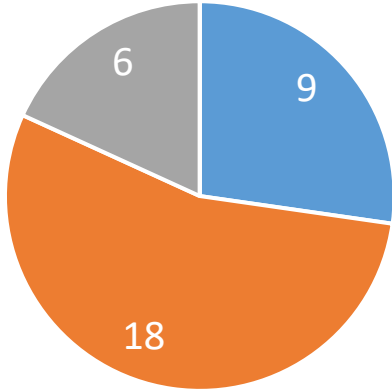


- 1.プレゼン技法
- 2.専門性
- 3.人物・個性・特技
- 4.ポスターのデザイン・レイアウト
- 5.その他...

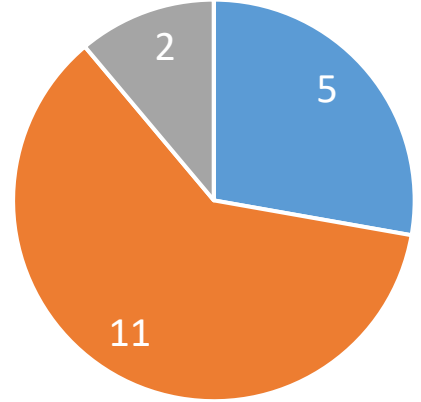
[3] 企業／博士人材とコンタクトがとれましたか？

■ポスター発表でのコンタクトについて

博士人材



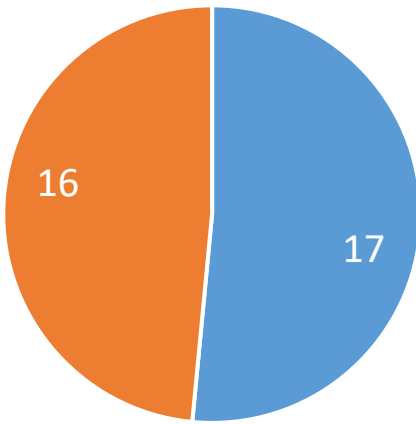
企業



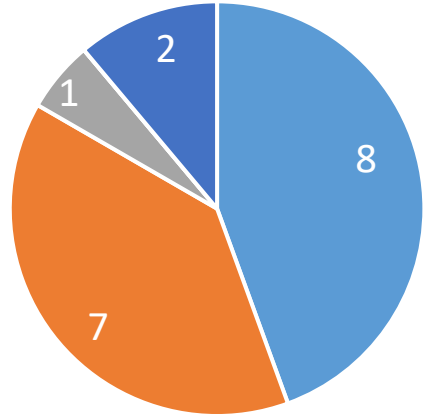
- 1. 十分コンタクトがとれた
- 2. ある程度はコンタクトがとれた
- 3. あまりコンタクトがとれなかった
- 4. 全くコンタクトがとれなかった
- 5. 不参加

■企業ブースでのコンタクトについて

博士人材



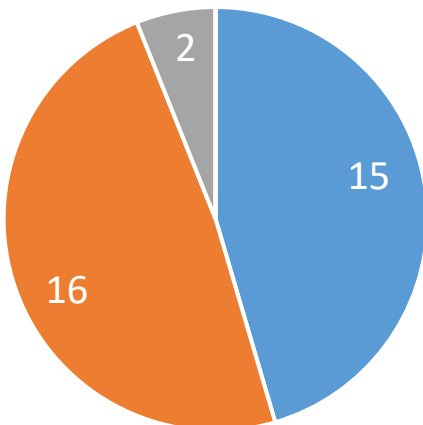
企業



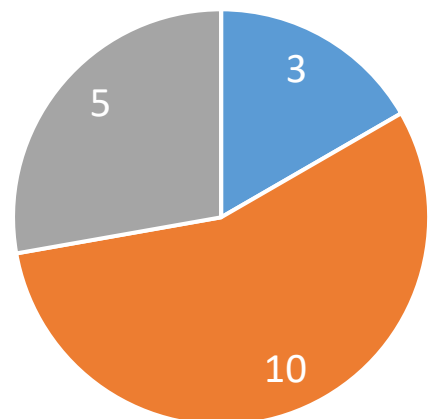
- 1. 十分コンタクトがとれた
- 2. ある程度はコンタクトがとれた
- 3. あまりコンタクトがとれなかった
- 4. 全くコンタクトがとれなかった
- 5. 不参加

■情報交換交流会（懇親会）でのコンタクトについて

博士人材



企業

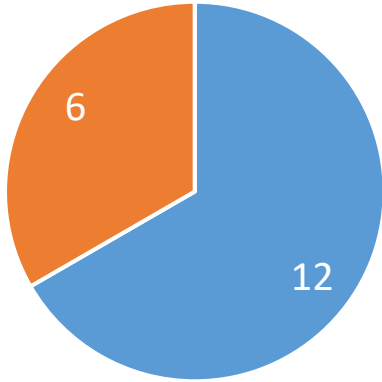


- 1. 十分コンタクトがとれた
- 2. ある程度はコンタクトがとれた
- 3. あまりコンタクトがとれなかった
- 4. 全くコンタクトがとれなかった
- 5. 不参加

<p>ポスターセッションでの企業の方の人数に対して参加者が多かったので、待ちの時間が長かった</p>
<p>前回参加した際よりも、企業の方の研究観を感じることはできた。 特に各研究員による研究の提案が推奨される企業が思った以上に多い印象だった。</p>
<p>堅苦しい雰囲気のある企業には入りたくないのですが、企業の方々とのコミュニケーションを通じて、応募する企業を絞ることができました。</p>
<p>企業ブースのコーナーで、もう少し色々な企業を周ってみたいかったです。</p>
<p>ポスター発表の時間では、空いている企業の方を見つけるのに少し苦労したものの、企業ブースでの20分間はちょうどよく、また懇親会では食事をする暇もないほどお話しする機会があり、充実した時間を過ごすことができました。</p>
<p>気になっている企業の方と十分にお話しできた</p>
<p>事前に説明を受けてはいたが、企業に対して学生の参加者が多い(または学生に対して企業がすくない)気がします。企業の方も十分に学生のポスターを回ることができなかつたとおっしゃっていました。</p>
<p>ポスター発表の時間終了後に企業の方からお声がけいただくことがあった。企業の方も事前に話を聞きたい学生を決めて来ているようだが、常に学生につかまわっていて、思うようにコンタクトをとれていないとのことだった。学生と企業の赤い糸を見つけるうえで、積極的に企業の人を捕まえるように指導しすぎるのは逆効果かもしれないと感じた。(もちろんある程度の積極性は必要だと思うが...)</p>
<p>企業の方の流れが一か所にとどまってしまうように感じた。ポスターから離れてもっと勧誘するべきだったかもしれない。</p>
<p>企業の雰囲気や、研究チームの様子など、ホームページの情報のみだとなかなかわかりづらいところを知ることができた。</p>
<p>昨年度の化学・バイオ系の赤い糸会と比べて、企業の方々と話す機会が増えて良かった。</p>
<p>発表時に他のエリアまで積極的に声をかけにいったことで、コンタクトを多く取ることができた。実際の就職活動においても、こうした姿勢が結果に繋がれば良いと思った。</p>
<p>ポスター発表では最初に全く人が来ず、事前に見たポスターが響かなかったのか...と少し悲しい気持ちになりましたが、ポスター発表の時間がたっぷり取られていたおかげで、最終的にはお話ししたかった全ての企業の方(全7企業)にポスター発表を聞いていただくことができました。一方で、企業ブースでは質問を事前に決めていなかったことと、修士で全く就活をしていなかったこともあり、周りの学生さんがしっかり質問しているのを横目で見ながらあまり質問できなかったのが反省点です。懇親会では、お酒の力もありかなりゆっくり話すことができました。選考開始直前に人事の方と研究の方、両方とこんなに心ゆくまで話せる機会はそうないと思うので、本当に恵まれた環境だと思いました。</p>
<p>事前アンケートで第一志望に入れていた企業の方に、「第一志望に入れてくれていなかったと思う」と言われました。企業の方の勘違いであればよいのですが、アンケートの集計作業で不具合がなかったか懸念しています。</p>
<p>ポスター発表では人数比の関係で企業とコンタクトを取れない時間も若干あったが、事前に話したいと考えていた企業には自分からアプローチし、話を聞いてもらうことができた。企業交流会ブースでは、元々ポスター発表で話を聞いてもらった方以外の企業ブースに行こうと考えていたが、ポスター発表の時間だけでは、自身の研究と企業との接点について十分に把握することができなかつたため、同じ企業のブースに参加してしまった。</p>
<p>色々な企業の方と垣根なく話すことができたのでよかった。</p>
<p>早い時期なので緊張感無く突っ込んだ話ができた。</p>
<p>学生の数に対して企業の方の人数が少なかったため、特にポスター発表において一部の方にしかプレゼンができなかつた。</p>
<p>志望度の高い企業とかなりコンタクトが取れたと思う</p>

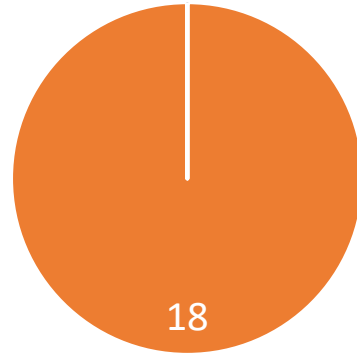
[4] 企業のみ

参加博士人材について



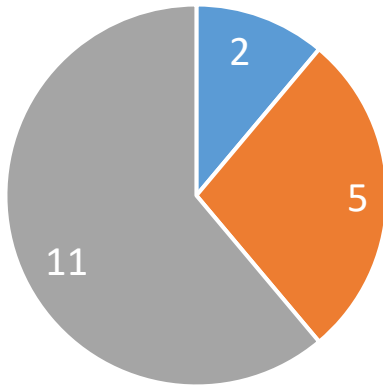
- 1. 欲しい分野の博士人材に会えた
- 2. 意外な分野の博士人材に出会えた
- 3. どちらでもない

参加博士人材に対する今後の対応をお聞かせください



- 1. 採用したい博士人材がいたので、今後交渉を進めたい
- 2. 採用については未定だが、今後もコンタクトを取りたい博士人材がいた
- 3. コンタクトを取りたい博士人材はいない

DC・PDのインターンシップ(1ヵ月位)について



- 1. 受け入れを表明している
- 2. 受け入れてもよい
- 3. 受け入れは難しい

「3.受け入れは難しい」を選択された方:
差し支えなければ、理由をお教えてください。

1か月という期間であれば、研究所のルールを教えて終わってしまいます。例えば組換え実験の教育や実験者登録を完了するのに、2週間弱はかかってしまいます。

会社主催のインターンシップのみ受け入れているため
(個別対応は受け入れていないため)

受け入れ態勢が整っていないため

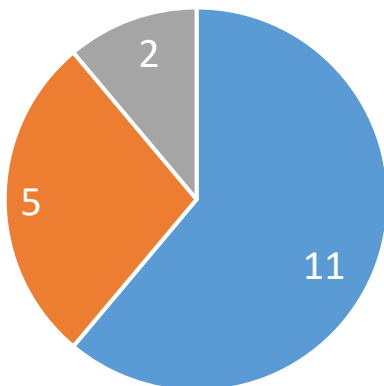
現状はまだ、受け入れ先の現場との調整ができていないため。

研究所内のルール(試薬、廃液管理、安全衛生など)を覚える必要があり、1か月では実験業務に参画いただくのが難しい。

会社として、施策を行ってないから

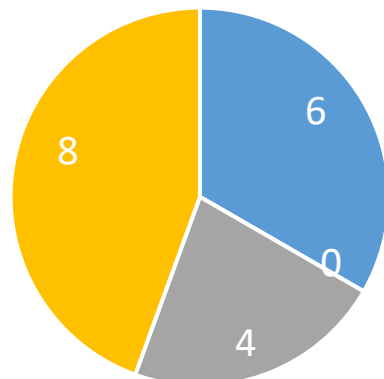
研究所のルールが未整備のため

DC採用について



- 1. 定期的に採用したい
- 2. 時期に関わらず、採用したい
- 3. 採用については未定

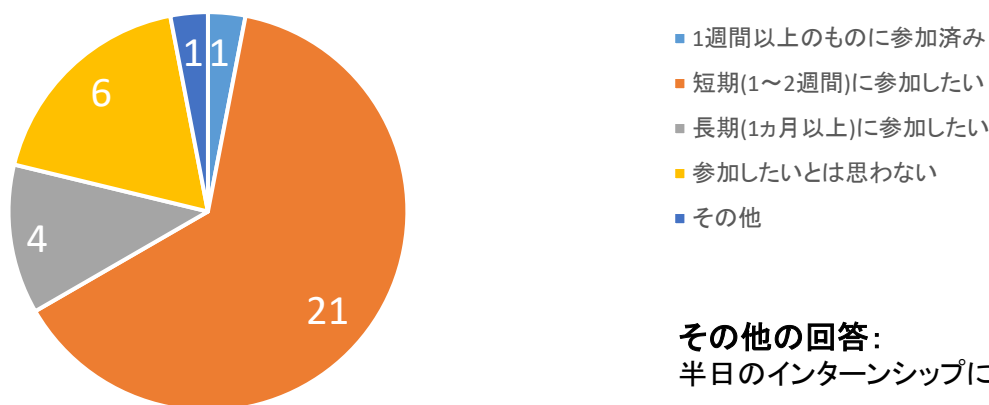
Hi-System(博士人材と企業の双方向ネットワーク)の利用について



- 1. イベント参加
- 2. コミュニティ
- 3. 博士人材検索
- 4. 利用していない

[5] 博士人材のみ

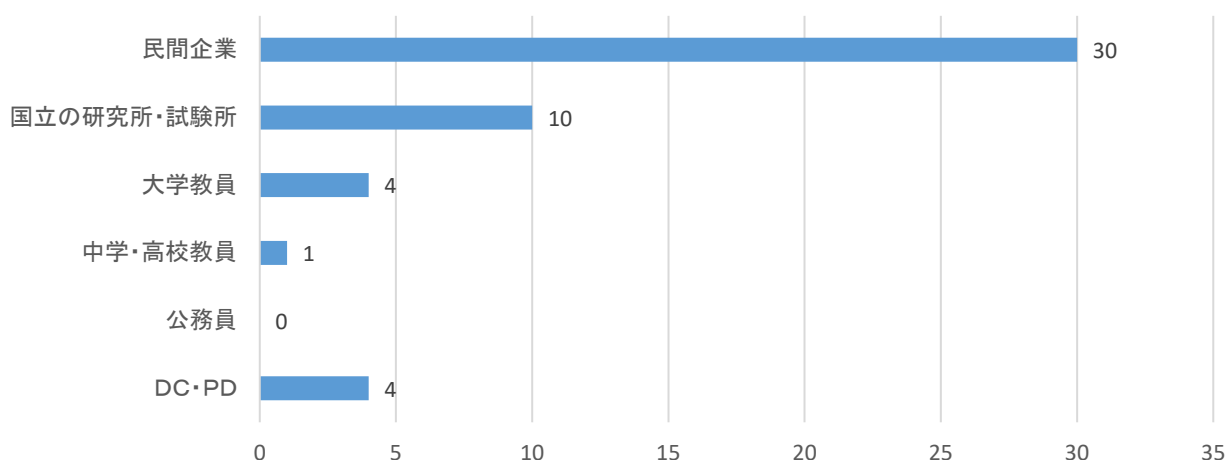
本会参加の企業に限らず、インターンシップに参加したいと思いますか。



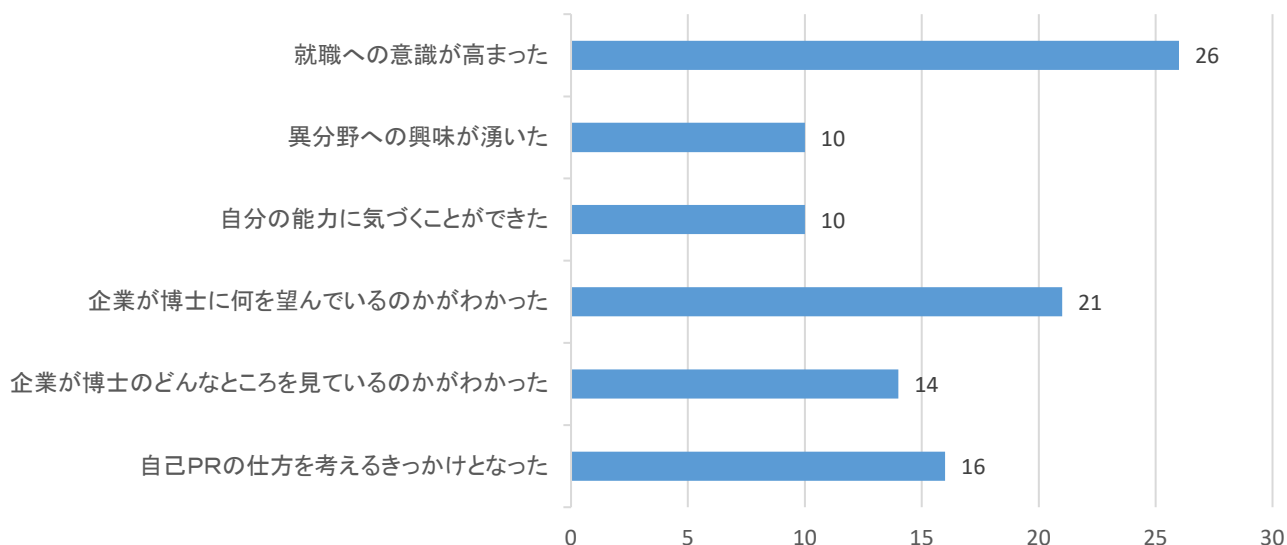
その他の回答:

半日のインターンシップに参加したいです。

あなたは、今後のキャリアパスをどのように考えていますか？（複数回答可）



「赤い糸会」は、進路決定の参考になりましたか？（複数回答可）



**[6] 「赤い糸会」に参加して新たな気づきはありましたか。
それはどのようなことですか。（博士人材のみ）**

1	企業での研究について、複数社聞くことで特色が分かった
2	自分の研究分野が企業が行なっている事業と少し異なっている興味を持ってくださるのが多数あったこと
3	エーザイ様とのやり取りを通じ、自身が最もやりたいことと、自身の専門性が最も求められる分野は必ずしも一致しないと気づいた。この経験から、自身のキャリアを考える上でやりたいことと、強みを発揮できる領域の両観点から企業選択を行おうと思った。
4	前回の赤い糸会ともあわせた結論になるが、研究職以外に挑戦したい気持ちが強くなってきた。
5	自分が何を大切にしているのか、それがマッチングするかどうか、がわかった
6	ほかの企業と比べると製薬企業全般、博士人材に求めるレベルが高いなと感じました。後2年精進したいと思います。
7	リーダーシップは必ずしも人達を引っ張ることを指すのではなく、自分の研究を如何に円滑に進めるよう導くこともリーダーシップ能力のひとつであることです。
8	自身の研究で当たり前に使っている技術が、専門性があって企業でも求められていること。就職先の分野が現在の専門との関連があまりなくても、就職への道はあること。
9	博士の就活においては高い専門性が求められていると思っていたが、研究遂行力や主体性を評価点として定めている企業が多いことに気づいた。そのため、学部や専攻にとらわれず、自分のスキルや思考を生かせる企業を見つけたいと思った。
10	企業としての判断軸と学生の軸の間を理解する機会となりました。
11	企業でも、(あくまでも利益を生み出すための研究である必要はあるが)自分で発案したテーマで自由に研究ができるということ
12	企業の方と直接対話することで、HPを見たりweb説明会とかではわからないような企業の特徴をつかむことができました。その結果、自身のPR方法のイメージもわかりました。
13	思っていた以上に、企業の方は自分の経験や専門性を評価してくださるということを知り、自身が出てきた。また、現在の専門とは少しずれていても大丈夫だと知り、視野が広がった。そのうえで、自分が何をしたいのかがはっきりとわかってきた。
14	自身の積極性の足りなさ。就職に対してもっと貪欲にならなくてはならない
15	研究で得られる専門性以外のスキルをかなり期待されているということ。
16	企業の研究職は開発との結びつきが強く、基礎系の研究であっても、製品や社会課題が最終的な出口にあってそれに向かって取り組むというような印象を受けました。自分の考える基礎研究の立ち位置とは少し違っていたので興味深かったです。具体的に見に行きたいポスターがあるような企業の方も複数人いらっしゃる印象を受けたので、それを引き止めて聞いてもらっても興味を持ってもらえるのか不安を感じました。
17	私が考えているよりも、私の専門性を必要とする企業や、マッチする企業が多くあるということに気づくことができました。また、今後の就職活動の課題として、私の専門性や人柄を上手く伝えるという能力が不足していることにも気づくことができました。
18	製薬企業が私に求める専門性(動物実験など)と自分の興味の方向性との間にはずれがあるように感じた。食品系企業はより幅広いアイデアを受け入れられる環境があると気が付いた。
19	企業は専門性よりも専門性を身に着ける過程で身に着けたものを重視している。
20	企業が求めるリーダーシップと、特に博士人材に求められるリーダーシップについての実際を知ることができた。周りの人間との日々の議論や会話を、残された学生生活で大事にしていきたいと思った。
21	今回の参加企業の分野はあまり合っていないということ
22	企業の方にポスターで同じようなことを聞かれ、博士を求めている企業が気になるポイントは意外と変わらないことがわかりました。また、修士で就活をしていないことを引け目のように感じていましたが、今からちゃんと就活すれば全然間に合いそうだなと自信が付きました。

23	化学メーカーと製薬会社の気風の違いを改めて実感しました。自分の性格的には、化学メーカーの方が合っているかなと思いました。
24	企業が博士人材に対してどのようなことを期待しているのかを把握できた。当然ではあるが、博士人材には高い研究力を期待しており、ただ「高い研究力」と一言で言っても様々な面があり、それを今回の赤い糸会に参加したことで、具体的に言語化することができた。
25	自身が研究をやること、そして他人の目線からそれを評価することこそが、その先のキャリアにつながってくるということ。
26	当然即戦力としての博士人材を欲しがっている企業もあるが、自身の専門性に悪い意味で固執しない、いわゆる博士人材全体に期待される能力を企業も期待している印象を得た。
27	これまで自分に関係のない分野だと考えていた領域においても、思いがけない形で自身のスキルが活かせる可能性があることに気づきました。
28	専門外でも博士学生の需要が思ったよりもあること
29	飛び抜けた専門性を重視する企業もあれば、他分野と融合せ切る力を重視する企業もあるということ。
30	赤い糸会に参加する前まではアカデミアか企業か迷っていましたが、今回の赤い糸会に参加し、企業での研究生活のイメージを知れたことで自分はアカデミアで研究することが一番やりたいことだと気づくことができた。
31	研究職で博士課程を取るのには分野の専門性がマッチしないと採用していただけないと思っていましたが、専門性を突き詰める力がある博士課程を求めていると知り、少しテーマが異なっても採用してくれることがあるということを知りました。
32	企業の方がどのようなことを博士人材に求めているかを知ることができた。
33	職種の中でバイオプロセスで自分が求められていることがわかった

[7] 今後、博士人材へ期待すること・要望など（企業のみ）

1	研究を磨き続けてほしい
2	専門性、柔軟性、コミュカ
3	苦しい時も多いかと思いますが、研究を楽しんでください。
4	専門性と柔軟性、事業への貢献を意識できていること
5	幅広い知見や、現在の専門性以外に視野を広げることは確かに大事ですが、現在の専門性をないがしろにならないようにしていただければ。専門性をまずはきっちり身に着けること。その先に広い視野があると理解して自らを鍛えることを期待したいです。
6	自ら課題を設定し、データと論理に基づいて考え、周囲と議論しながら前に進める力
7	難易度の高い研究テーマに挑戦し、苦労しながらも乗り越えた経験を積むことを期待します
8	自ら課題を設定し、俯瞰的な視点で研究を進め、他者を巻き込みながら革新的な成果を生み出すことを期待します
9	一般的な就職活動の手法やテクニックに流されず、自身の興味や感性を最大限発揮して就職活動を進めていただきたい
10	専門性を深化しつつもそれにとられ過ぎない柔軟な思考
11	アウトプットの量と質、組織運営力
12	高い専門性と研究テーマが変更になった場合などの柔軟性
13	しっかり研究を進めて博士号を所得してほしい

14	日々同じ作業のみを行いたい方というよりは、挑戦し続ける方を求めています。将来的には担当となったプロジェクトの目的に対して最適な作業内容を考え実行していただきたいと考えています。プロジェクト進行中に想定外の状況になった場合の対策の提案や、プロジェクトを早く進行するために適した人員数やその配置も考えていただきたいです。上記について入社数年後にご自身が行えるよう成長するということを意識し、行動することを期待しています。また研究内容が企業の事業内容とマッチしにくい場合、研究の進め方について厚めにアピールするのも良いのではないかと思います。
15	より各ラボの研究を深掘りして、マニアックな技術、知見を身につけていただければと思います。
16	多様な視点の獲得、価値創出へのプロアクティブな行動
17	企業への興味を持って欲しい。活躍できる場は多い。
18	基本的な研究能力、切り開く力、人脈

[8] 全体を通して、「赤い糸会」についての意見、要望など

博士人材

1	企業の参加人数の制限で、研究職の方が参加できないようだったので、制限人数が緩和されるといいと思った
2	企業と学生が15分以上喋っていたが、学生側から話を切り上げにくいので、何かシステムがあって欲しいなと感じた
3	夜遅くまで貴重なお時間をいただき、誠にありがとうございました。大変お疲れのことと存じますが、最後の情報交換会については、希望者に対してもう少し時間を設けていただければと、より深く企業理解を深められたのではないかと感じました
4	会食は企業ごとに小テーブルを用意していただく形のほうが嬉しいと感じた。
5	事前に各企業の方の顔と名前を見ておきたいので、ショートトークの際、プレゼンターだけでなく、全員の顔がわかるようにしていただけると話しかける時に分かりやすいと思いました。
6	名古屋大学のマッチング交流会を機会に一社内定をいただいているのでとてもいい取り組みだと感じています。
7	今回はバイオ化学系中心だったが、分野が限定されていない会にも参加してみたいと思った。
8	近い距離でたくさんの企業の方とお話できる大変貴重な経験をさせていただき、求められる能力や、アピールすべきポイントについての理解が深まった。
9	今回は企業の数と比べ、参加する学生の数が多かったため、ポスター発表の最初20分では企業とのコンタクトが難しかったと思われます。この部分については少し企業数の調整や学生人数の調整などが必要と考えられます。
10	企業の方と直接ポスターディスカッションして、フィードバックをいただける機会はなかなかない。企業に対して自分の研究をどうプレゼンするのが見えてくる、非常に良い機会。
11	個人的な問題ですが、やや化学バイオ系のなかでも製薬会社や食品系が多い気がしたので、もう少し化学メーカーを増やしていただきたいと思いました。
12	もっと企業数を多くしてほしい
13	研究に追われながらも早期化する就職活動に意識することができた。
14	ポスターの時間が少し短かった。

15	企業の方と話す貴重な機会になりました。 企業ブースや懇親会をどういう場として活用すればいいのか難しかったです。
16	前回の化学・バイオ系赤い系会と比べて、多くの企業の方々と話すことができ大変有意義な時間でした。 時間的に難しいかもしれませんが、懇親会がもう少し長いと嬉しいです。
17	各企業が採用したい学生像の解像度が上がった気がする。自分の希望についても改めて考えるきっかけになったので、とても充実した会でした。
18	赤い系会よりも気軽に参加できる、博士向けの企業説明会も、今後増えていくといいと思った。
19	事前のプレゼンテーション演習で、ポスターや発表の仕方が大幅に改善したことが参加して良かった点です。ポスターの公開範囲が事前あまり知らされていなかったの、当日印刷して学生にも配られて少し驚きました。利用のされ方をもう少し具体的に知らせていただけるとありがたかったです。 ポスター発表では少しフライングしている企業がいたのが気になりました。また、自分のポスターの持ち場から大きく外れたところまで移動して声をかけていた人もいて、それはやっているのか(禁止されていないので良いのかもかもしれませんが…)ルールが不明瞭でした。私は周囲の人がとても積極的に人を連れてくるタイプだったので、その人が話終わったら声をかけて助かったくらいでした。戦略を個人で考えるのも含めて詳しいルールを定めていないのかもかもしれませんが公平性の点で少し気になりました。
20	可能なら開催頻度をもっと増やしてほしいです。
21	プレゼン演習や、振り返り会の日程を早めにご連絡いただくと非常に助かります。
22	回れる企業がもう少し多くてもいいのではないかと感じた。
23	ちょっと人数が多かった気もする
24	就活へのモチベーションが高まりました。貴重な機会をいただきありがとうございました。
25	学生の比率が企業よりも多いため、ポスター発表できない時間があった。
26	現在以上に頻繁に開催いただくとありがたいです。
27	ポスターの時間で学生に対し企業が少ないので、時間帯を分けるなどしてほしい
28	人事の方や研究職の方とたくさんお話しできる機会はないので、このような場を設けていただきとても貴重な経験になりました。
29	企業を知るとても良い機会になったので今後も積極的に参加していきたい。 特にポスターのプレゼンテーション演習はいい機会になった
30	ポスター発表の時間をもう少し欲しい

企業

1	良い機会であった
2	良い機会
3	この度は貴重な機会をありがとうございました。運営側の皆様の創意工夫に感謝いたします。是非次回も参加させていただけますと幸いです。
4	熱心でポテンシャルがある学生さんが多くいることが分かった。 一方で、プレゼンは社会への影響をもう少し意識したほうが良い。 また、他社の動きが積極的であることが分かり、当方の意識を変えなくてはならないと思った。
5	61回も回数を重ねられていて、非常に会の運営が行き届いているという感想を持ちました。
6	貴重な機会をいただき、ありがとうございました。 今回は博士人材の方が多く、ポスター発表では一人ひとりと十分に議論する時間が限られていた点が、やや惜しく感じられました。
7	ポスター発表時の学生の積極性は印象的でした。とても良い雰囲気だと感じました。
8	ポスター発表において、学生の方々へ積極的にお声がけいただいた点は大変有意義であったと感じております。一方で、当社として事前に対話を希望していた学生のポスターを十分に拝見する機会が限られていたため、今後の参考として共有させていただきます。
9	多くの博士人材と密にコミュニケーションが取れる機会で、学生の様子がつぶさに分かり、大変有意義なイベントであると感じています。
10	前回参加から間が空いてしまっていたが、学生・企業ともに非常に有用な機会であると再認識した。引き続きお願いしたい。
11	今回初めての参加でしたが、本当に学生さんが積極的に参加してくれていて、とても良かったです。人事の私にもわかりやすく研究の説明をしてくれて、入念に準備してくれていたことも伺えました。
12	ポスターや自身や自身の研究の説明の仕方を拝見し、時間をかけて準備されたのではないかと思います。どの方も民間企業に入られてからも仕事を行う能力があると感じました。
13	博士学生の方の真剣さ、積極性が伝わってきた。よく準備された会だと感じました。
14	ポスターの時間が短いと思いました。学生が積極的に声をかけてくれるので、もっとたくさん見たかったです。
15	若い学生さんの生きた研究のお話伺えて大変楽しかったです。前回も参加させていただきましたが、ポスター見きれず、時間が足りない印象がありました。可能であれば、もう少しポスターのお時間伸ばしても良いかもしれません。
16	プログラムがタイトであり(休憩時間もアンケート対応で終わりました)、一人ひとりを把握するのが難しかったです。
17	非常に良かったが、改善点としては学生とのコミュニケーションの時間が少なかったこと。採用活動に繋がるのかは検討中だが、興味を持った学生を選択しました。
18	ポスターの時間を増やしてほしい。

[9] J-window（先端人材育成センター担当教員との面談、エントリーシートなどの添削、面接練習）の利用について

- 既に利用している
- 今後利用してみたい
- どちらでもない
- 利用する予定はない

